別紙様式２

| 指定校番号 | 29052 | 学級活動 | | 生徒会活動 | ○ | 学校行事 | | 中学校用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| 学校名 | 尾道市立向東中学校 | 校長 | 井上 一男 | 生徒指導主事 | 岡野 大助 |
|---|---|---|---|---|---|

## 取 組 事 例 名　『いじめ撲滅プロジェクト』

### 取 組 の ね ら い『いじめを許さない機運づくり』

生徒会活動を通じて，学校全体に「いじめは絶対に許されない行為である」という機運を醸成するとともに，いじめを発見した際の具体的な対処法について全校で共有する。

### 身に付させたい資質・能力

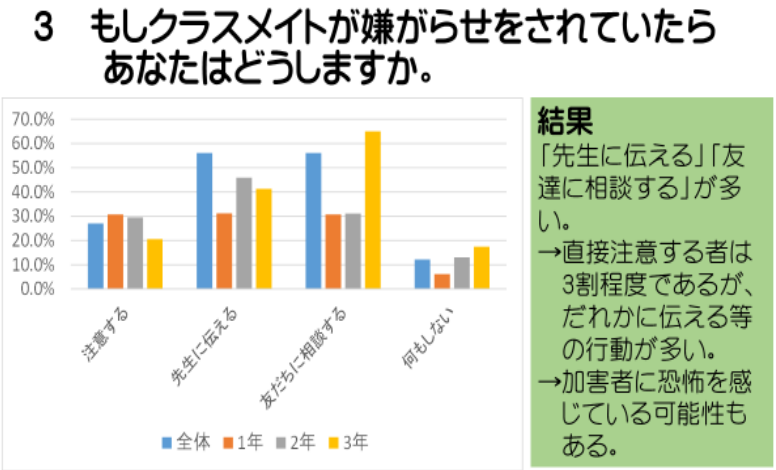
いじめに対し「No」を示す力

いじめに対する正しい理解，認識に基づき，いじめを許さない具体的な行動力を身に付けさせる。

### 取 組 の 具 体 的 内 容『いじめの実態把握に基づく対処法の提示及び共有』

生徒会による「いじめ撲滅プロジェクト」を展開している。本校における「いじめ」は遊びやからかいから始まるという，生徒目線の分析から，「『いじめを許さない』生徒集会」等で，生徒会執行部がプレゼンテーションを行い，全校生徒に呼びかけた。

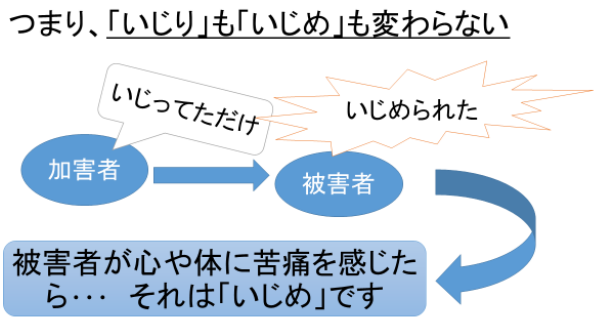
さらに，生徒アンケートを実施し，加害・被害の実態や嫌がらせへの対処法等，自校の実態から傾向を分析し，いじめ撲滅に向けた生徒主体の機運づくりを進めた。




生徒会プレゼンテーション資料から抜粋

### 取組の課題・創意工夫『生徒目線のいじめ分析』

生徒の間で，「いじめ」と「『いじり』や『からかい』」の境界線が明らかになっていない実態があった。その課題に対し，生徒会が，全校生徒アンケートの結果を基に「これは『いじめ』です」を明らかにしたことには意義があった。また，いじめ発見時に，生徒目線で「こんな対応ができるのでは」という提案をすることができたことで，いじめへの認識と具体的なアクションについて全校で考える機会になった。



## 取組の成果（効果）『「傍観者」「観衆」の立場の者がいじめを発見した際の対応例の共有』『「いじめ撲滅プロジェクト」の校区小学校への広がり』

生徒のリーダー達（生徒会執行部）が，自校の実態を明らかにしたことで，全校が「自分事」として，いじめの問題について考えることができた。

また，いじめと思われる事象を発見したときの対応としていくつかのパターンについて劇を通して例示したことにより，具体的な行動を学ぶことができた。

学校生活アンケート結果（全校生徒対象）

「学校はいじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる」70.8→82.0

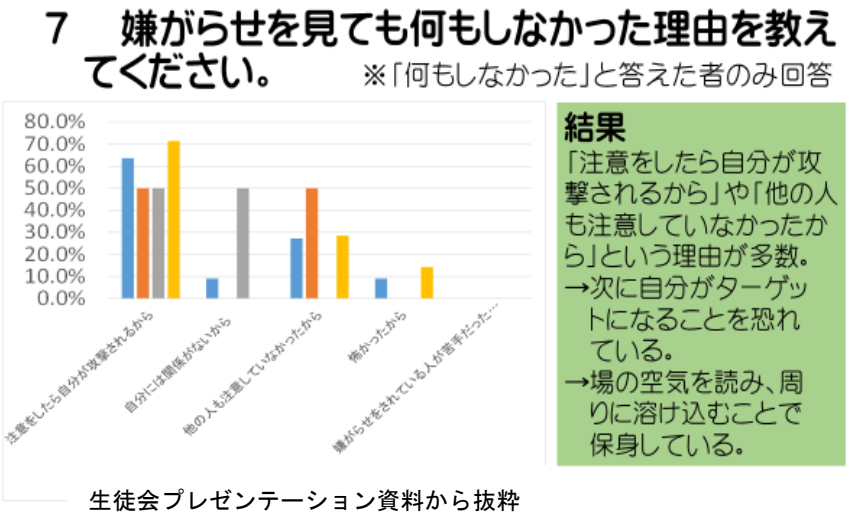
さらに，この生徒会主体の実践を小学校児童会に広げ，校区をあげての取組へと発展させた。

中学生は自分たちの実践に自信をもてたこと，小学生はより高いイメージをもてたこと等，異年齢交流の効果も顕著に見られた。「いじめを許さない」小中をつないだ実践を今後も継続して行い，その風土づくりに努めることを小中連携の中でも確認している。

## 今　後　の　展　開『生徒会活動と学級活動，道徳の時間の関連』

生徒会による「いじめ撲滅プロジェクト」に絡めて，学級活動や道徳の時間に話し合い，学級単位で課題解決に向けての具体策を練るなど，実践につないでいく必要がある。

さらに，生徒総会等で，いじめについての議論を通じて，いじめ撲滅に関わる合意形成を図る機会をつくっていきたい。




生徒会プレゼンテーション資料から抜粋

## 他校へのアドバイス『生徒発信』

生徒が本気で発信するメッセージには「力」がある。生徒会活動を活性化することで，よりよい学校づくりの「主体」へと生徒を鍛え，伸ばしていく学校体制の構築が求められていると考える。